

20-49

特15

43

166

49

版

著名なる旅館料  
理屋芝居飲食店  
其他名所位置及  
里程等を示す

京都名所づくし

025390-000-5

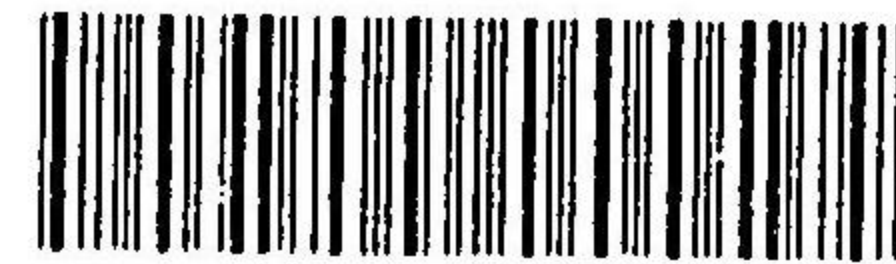
特15-43

京都名所づくし

岡部 与助/編

M28

ADC-2836





京都名所悉と

國をまもりの遠山に  
はかの錦のまやまには  
年をりさねし祝ひとて

也阿彌圓山	日光屋	三橋
京都	二條河原町	御池
茶久	三條大橋	終屋
澤文	鉄屋丁	伏見屋
鍵屋	六條境	扇屋
		六條境

ベルトン水車すえなりべ  
電動力とおさしめ

かすみたあびく春の頃  
平安遷都千百の  
紀念祭をい擧げりし  
芽出度御代のはるあそび  
疏水工事はとこしへに  
田邊博士と静屋の  
いそはを殘す名譽標  
此れ水力を應用し  
二千四百れ馬力もて  
市街をてりす電氣燈

レールを走る電氣車も  
インクラインの妙力も  
車とまわす速力も  
さくも不思議の大智能  
水に參差の影うつと  
内國技藝の競進會  
人皇五十代の帝  
西南長岡の都々り  
紀念にのこす平安宮  
あやよりしこき事ばかり  
天照大神を始めとし  
神と乃こりて觀請す

荷船と岡よひ死あぐる  
撚糸紡績諸會社の  
凡てこをなる水勢と  
疏水あそふて一大履  
すがたと見るは博覽場  
ゆさひに映す玉殿は  
桓武天皇行在と  
此地よりつし給ひを  
白虎蒼龍大極殿  
神樂は岡に吉田山  
六十餘州まぢくの  
弓手に高麗御山は

都の富士と名にしれふ  
御代をまもりの比叡山  
傳教大師の開基ふて  
天台山とうつすとぞ  
中堂講堂戒壇堂  
ふもとに山王廿一社  
馬手は黒谷眞如堂  
月にみかげる銀閣寺  
立田とそむる永觀堂  
聖護院には山伏の  
南禪寺とは音あさく

旅 萬屋 三條河原町 柏亭 木登町三條

和	料	理
梅尾四山	瓢亭南禪寺	松清御池
清輝樓三本樹	堺屋上加茂	八新
森升聖護院	相摸屋下加茂	御池
中村屋四山	生龜木屋丁	三條

いとかを並べ立玉ふ  
北白川に鹿が谷  
高等校のむねたかく  
若王寺の瀧と見て  
昔と一のふ八ッ橋屋  
巨剎も一夜のけむと消へ  
はまのまさごの敷つさず

宿	
大津屋 三條小橋	桔梗屋 室町六角
吉岡屋 三條小橋	若狭屋 越屋小路
升屋 東洞院	松吉 御幸町三條
越前屋 東洞院	海老屋 六町東洞院

栗田の御所を参拜し  
しうしうのれと法華經の  
祇苑の社七觀音  
雲にそびゆる高臺寺  
淨藏貴所ノ行ひし  
田村將軍のこんりうなり  
音羽乃瀧は白糸を  
大佛殿はるしやな佛

山門のとは残りたり  
靈山圓山長樂寺  
頼山陽の墓と訪ひ  
櫻ちりしく花頂山  
智恩院には鶯の  
聲をといひる大がらん  
素盞鳴尊と祭りより  
宮城野萩を移すとぞ  
八坂の塔や清水寺  
地主權現の花盛り  
をり返し打詠先  
ならびて卅三間堂

歌に中山清閑寺  
 いつも秋にはあらねども  
 通天橋を打渡り  
 うづも鳴なる深草山  
 千代をよめよる竹田の里  
 車の影は今はなし  
 こい茶うす茶の年とへて  
 名にさちばなの小島が崎  
 花ささにはふ山吹の  
 瀬にうげ見ゆる宇治の里  
 恵心院に興正寺  
 白くもまくる朝日山

新熊野をも打過ぎて  
 東福寺には名も高死  
 稻荷乃山に藤の森  
 君を伏見の里近々  
 淀の川瀬の水車  
 めぐりて行けば黄檗山  
 芝 南座 四條 坂井座 京極  
 祇苑館 祇苑 夷谷座 京極  
 常盤座 京極 福井座 京極  
 牛 竹亭 京極 翁亭 京極  
 肉 三嶋 三條寺町新養亭 京極  
 平等院に鳳凰堂

頼政郷のしんちやうに  
 花咲くときに扇の芝  
 松の尾桂梅の宮  
 化野の原小鹽山  
 嗟峨に嵐の櫻花

のこす埋木朽やぶす  
 八幡山崎寶寺  
 おひろに隣る雙の岡  
 神代のむかし思ふなる  
 桂の川の水清く

名	織物業(大丸)	新町全	東湖院
紅	高島屋	鳥丸	押小路
半襟	(紅平)	寺町	小紅屋
	鳥丸		
	ふしの粉	(本家葎堂前町にあり)	

道賢公をまつりあし  
 牛のあのみや平野の社

名も太秦に興隆寺  
 高雄水の尾愛宕山  
 枯るゝも同じ野邊の草  
 あこれを残す祇王寺  
 小倉の山や二尊院  
 北野の天神うちすぎて  
 義満公の金閣寺

加茂川貴船鞍馬寺  
 さたゝま花と折をへく  
 いたゞきつれし賤のまざ  
 糺乃池れ夕すいゑ  
 人のいのちを千代くらぐ  
 師範學校かみよじて  
 三五の月や二九ノ花  
 審美の學や奥ふゝし  
 車ぶへしの八重櫻  
 畏とほくも東北に  
 今上陛下の御うぶや  
 榎村知事の偉功ある

岩倉芹生八瀬の里  
 優みやさしき小原女や  
 加茂の社はもりしげく  
 府立醫學お療病院  
 すくも國手れ恩ふかし  
 天女パラスの女學校  
 神象ツオイスの美術學  
 すめらゑやいの御園に  
 仙洞御所よ紫雲殿  
 鎮のかたをば続らし  
 祐の井の碑と苔むしぬ  
 扶桑初一の盲啞院

埼玉保己一サンダーソン  
 ゆめにも知らぬ教授法  
 明治の御代のたうとけを  
 京都府廳を右に見て  
 錦をりなす織姫の  
 手業もしげき西陣に  
 れんぶつくりれ大屋形  
 精神的の同志社と  
 三本樹に頼翁の  
 高瀬の水よ影うつし  
 粹な木屋まぢ宿すぎて

相國寺とは臨濟派  
 名も新じまど世も高た  
 幾多の學者ひれとあす  
 寓居は今に依然たり  
 びんのおくれ毛なで上る  
 ぬしと逢瀬を先斗丁

道		程	
智恩院	八丁	鹿ヶ谷	卅丁
八坂神社	七丁	若王寺	卅四丁
圓山	十二丁	四大谷	十四丁
長樂寺	十四丁	永觀堂	廿二丁
東大谷	十三丁	南禪寺	十二丁
高臺寺	十五丁	御所	十八丁
靈山	十八丁	東本願寺	廿丁
湊水	廿丁	西本願寺	廿四丁
黒谷	廿丁	フランシヨン	廿三丁
銀閣寺	卅五丁	大佛	十五丁

道	程	次
東福寺	廿六丁	愛宕
稻荷	一丁	御室
藤ノ森	一丁十丁	高雄
伏見	三丁	金閣寺
宇治	三丁半	北野天神
淀	三丁半	上加茂
八幡	四丁半	下加茂
松尾	二丁	貴船
嵐山	二丁	鞍馬
嵯峨	二丁	真如堂
		廿丁

また一しはの事をかし

押繪新内猿狂言

かゝる繁華れなすひとて

千鳥をうつす鴨川染

えちは變少ぬ五條坂

古きなごりと止先ける

眞宗一派の開基とす

四條のはしや祇苑街。  
 花のかんばせ月の眉  
 風に吹かるゝ糸やぎ  
 姿をとぞるす舞姫や  
 新京極のにぎとひは  
 芝居俄に講談家  
 女淨るりよせ手じな  
 風雅のさまは絶へてなし  
 べにねしるいを買求め  
 橋の擬寶珠の牛若の  
 而本願寺の堂たらし  
 そらよ棚引くむの帯

ひねをどろかす笛の音  
 つとふ人々おしなへて  
 名のみと残すさうへりの  
 さづなを繋ぐ島原の  
 都のふらはひとすじに  
 われふどさの賤男おは  
 かたはふいたき事多し  
 京都文學をとるへく  
 有明月のかけくさき  
 色は色の姿ひ死起し  
 圖書は設けとかくてうし  
 一大館を建連ね

軌道といしる鉄輪車  
 旅路にむかふステーション  
 柳の緑のはそやのに  
 伊達のくるはや無慘なり  
 優にやさしき事なれど  
 ん死くしたる業見へせ  
 願ふ所いなほひとつ

西洋  
 也阿彌陀山 京都  
 河原丁  
 二條  
 肉  
 烏新 三條 菊水 先斗町

教育會にふぞくなす  
 移るる書籍閱覽の  
 官民拳つる文學の

普及をはがる時くきは  
さは云へふるに京の土地  
げにや都と錦花

南洋 えるす

いかに芽出度ことなるを  
芳野はつせの花よりも  
都を花のにしになる

明治廿八年三月廿九日印刷  
明治廿八年四月三日發行

京都市上京區木屋町三條上上大坂丁十四番戶

編輯兼  
發行者

岡 部 興 助

京都市下京區寺町通松原上上京極町第七番戶

印刷者

宮 本 正 吉